

2025年2月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年4月14日

上場会社名 株式会社買取王国 上場取引所 東  
 コード番号 3181 URL https://www.okoku.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 長谷川 和夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 陳 美華 (TEL) 052-304-7851  
 定時株主総会開催予定日 2025年5月27日 配当支払開始予定日 2025年5月12日  
 有価証券報告書提出予定日 2025年5月28日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期の業績 (2024年3月1日~2025年2月28日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期	7,822	16.1	422	△14.8	465	△11.1	328	△8.9
2024年2月期	6,739	14.9	495	27.9	523	24.5	360	31.6

  

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年2月期	90.09	—	11.3	9.6	5.4
2024年2月期	99.36	—	14.0	12.5	7.4

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年2月期	5,227	3,062	58.6	838.92
2024年2月期	4,446	2,751	61.9	757.45

(参考) 自己資本 2025年2月期 3,062百万円 2024年2月期 2,751百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年2月期	107	△758	318	932
2024年2月期	354	△109	0	1,265

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年2月期	—	0.00	—	10.00	10.00	36	10.1	1.3
2025年2月期	—	0.00	—	10.00	10.00	36	11.1	1.2
2026年2月期(予想)	—	0.00	—	—	—	—	—	—

(注) 2026年2月期(予想)については、現時点において、未定とさせていただいておりますが、配当性向の目標は10.0%以上といたします。予想が可能になった時点で、速やかに開示いたします。

3. 2026年2月期の業績予想 (2025年3月1日~2026年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,215	20.4	177	△8.0	203	1.4	137	△9.6	37.50
通期	8,810	12.6	500	18.6	543	16.6	366	11.7	100.14

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2025年2月期	3,664,050株	2024年2月期	3,640,100株
2025年2月期	13,152株	2024年2月期	7,802株
2025年2月期	3,644,290株	2024年2月期	3,626,967株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 4「(4) 今後の見通し」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	5
3. 財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 貸借対照表 .....	6
(2) 損益計算書 .....	8
(3) 株主資本等変動計算書 .....	9
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(表示方法の変更) .....	12
(収益認識関係) .....	12
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、雇用と所得環境が改善していることで景気は緩やかな回復傾向が続いております。一方で、不安定な世界情勢や為替相場の影響による資源・エネルギー価格の高騰、物価の上昇などのリスクが大きく存在し、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

リユース小売業界におきましては、社会的な循環経済への関心や消費者の生活防衛意識などが高まったことにより、引き続きフォローの風が吹いておりますが、人件費上昇、店舗運営費用の高騰などで厳しい環境が続いております。

このような外部環境に対応するために、当社は様々な取り組みを進めてまいりました。

商品政策においては、全体の商品調達力を高めるために、各店舗の「とことん買取」を推進し、さらに、法人買取、宅配買取、海外仕入など商品調達ルートの強化を行ってまいりました。その結果、仕入金額が前事業年度より6億円以上増加いたしました。

店舗政策においては、店舗開発部門が、業態ごとの出店方針等を勘案しながら、精力的に開発活動を展開してまいりました。当初の出店計画通りに出店を進めた上、会社の運営状況に合わせて、マイシュウサガール業態に1店舗を出店いたしました。当事業年度の各業態ごとの出店経緯は以下のとおりであります。

業 態	オープン日	店 舗 名
買取王国	2024年3月1日	岐南店（岐阜県羽島郡岐南町）
	2024年4月19日	松原店（大阪府松原市）
工具買取王国	2024年3月16日	大津1号店（滋賀県大津市）
	2024年6月1日	高岡8号店（富山県高岡市）
	2024年8月2日	鳴海店（愛知県名古屋市長区）
	2024年9月28日	松原天美店（大阪府松原市）
	2024年11月29日	刈谷1号店（愛知県刈谷市）
マイシュウサガール	2024年6月21日	春日井店（愛知県春日井市）

積極的な出店に加えまして、2024年8月31日に総合リユースショップ良品買館事業の9店舗、プロ工具専門店 ツールマン事業の1店舗及び商品センターを事業譲受いたしました。この取り組みにより、当社の事業基盤を大きく拡大してまいりました。

他の取り組みとして、顧客満足度の向上及び全社の業務効率化を同時に満たせる新しいPOSシステムの開発が完了いたしました。2024年12月より、買取王国、良品買館、マイシュウサガール及びWHYNOT業態の店舗において、順次入れ替えを行いました。

その他に、一昨年に新設した営業企画部門が企画した買取王国業態全店舗の「御朱印巡礼祭イベント」に、総勢6,000名以上のお客様が参加され、そのうち158名のお客様が全店巡礼を達成してくださりました。お客様が楽しめる店舗づくりを推進した取り組みの成果が表れております。

以上の結果、当事業年度の売上高が過去最高を記録いたしました。一方、利益ベースにおきましては、各種投資の実施・物価上昇・人件費上昇による販売費及び一般管理費の増加により、前事業年度を下回っております。売上高は7,822百万円（前年同期比16.1%増）、営業利益は422百万円（前年同期比14.8%減）、経常利益は465百万円（前年同期比11.1%減）、当期純利益は328百万円（前年同期比8.9%減）となりました。

### (2) 当期の財政状態の概況

#### (資産)

流動資産は、前事業年度末に比べ498百万円増加し、3,517百万円となりました。これは、商品が468百万円、売掛金が69百万円増加した一方、現金及び預金が81百万円減少したことなどによるものです。

固定資産は、前事業年度末に比べ282百万円増加し、1,709百万円となりました。これは、有形固定資産が153百万円、無形固定資産が62百万円、投資その他の資産が67百万円増加したことなどによるものです。

この結果、総資産は前事業年度末に比べ780百万円増加し、5,227百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末と比べ21百万円増加し、988百万円となりました。これは、未払金が19百万円増加し、未払費用が30百万円増加した一方、未払消費税等が50百万円減少したなどによるものです。

固定負債は、前事業年度末と比べ447百万円増加し、1,175百万円となりました。これは、長期借入金が352百万円、資産除去債務が28百万円増加したことなどによるものです。

この結果、負債合計は前事業年度末と比べ469百万円増加し、2,164百万円となりました。

(純資産)

当事業年度末の純資産合計は、前事業年度末に比べて311百万円増加し、3,062百万円となりました。これは、譲渡制限付株式報酬としての新株発行により資本金が9百万円、資本剰余金が9百万円、当期純利益により利益剰余金が328百万円増加した一方、配当金の支払により利益剰余金が36百万円減少したことによるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ332百万円減少し、932百万円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は107百万円（前事業年度は354百万円の資金増）となりました。これは主に、税引前当期純利益487百万円などにより資金が増加した一方、棚卸資産の増加額289百万円、法人税等の支払額162百万円により資金が減少したことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は758百万円（前事業年度は109百万円の資金減）となりました。これは主に、関係会社貸付金の回収による収入300百万円により資金が増加した一方、定期預金の預入による支出252百万円、関係会社貸付けによる支出333百万円、有形固定資産の取得による支出245百万円、事業譲受による支出275百万円などにより資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は318百万円（前事業年度は0百万円の資金増）となりました。これは、長期借入れによる収入900百万円により資金が増加した一方で、長期借入金の返済による支出544百万円、配当金の支払額が36百万円により資金が減少したことによるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2021年2月期	2022年2月期	2023年2月期	2024年2月期	2025年2月期
自己資本比率 (%)	58.8	61.5	60.6	61.9	58.6
時価ベースの自己資本比率 (%)	30.9	29.8	79.4	65.7	49.5
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	2.3	—	5.0	2.8	12.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	163.8	—	75.7	128.0	16.6

(注) 1. 各指標はいずれも単体の財務諸表を用いて、以下の計算式より算出しております。

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

- (注) 2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行株式総数により算出しております。
- (注) 3. 有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。
- (注) 4. 営業キャッシュ・フロー及び利払いは、キャッシュ・フロー計算書に計上されている営業活動によるキャッシュ・フロー、利息の支払額を使用しております。
- (注) 5. 2022年2月期につきましては、営業キャッシュ・フローがマイナスのため、キャッシュ・フロー対有利子負債比率およびインタレスト・カバレッジ・レシオの記載を省略しております。

#### (4) 今後の見通し

今後の経済環境の見通しにつきましては、物価・賃金・金利がそろって上昇する状況が定着するなかで、内需中心で緩やかに回復することが期待できるものの、地政学リスク、アメリカのトランプ大統領による経済政策の変動や中国経済の動向など不安定要素が多く、先行き不透明な状況が続くと予想されます。

リユース小売業におきましては、人件費上昇、金利上昇などが厳しい状況にある一方、生活防衛や循環経済への関心の高まりなどにより、市場規模が継続的に拡大しております。

このような環境の下、当社は、「夢ある商品とサービスを通して、喜びと心の満足を創りだしていきます。」という経営理念の下、お客様の困りごとを解決し、お客様の期待を超え続ける商品とサービスを通して、顧客の感動を追求し続けることを経営方針としております。次の項目を主な経営課題として認識し、迅速に対処してまいります。

##### ①業務効率化

2025年3月に、新しいPOSシステムの入れ替えが完了いたしました。今後、新しいPOSシステムを活用した店頭業務の効率化を推進し、顧客満足度の向上及び収益性の改善を図ってまいります。

##### ②商品政策

店頭買取をはじめ、買取専門店・宅配買取・法人仕入・海外買付を強化し、安定した多様な調達ルートを確認してまいります。

多ルート商品調達力を推進すると同時に、販売チャネルを増やし、各種商材の特性に応じて販路を定め、的確に多くのお客様に届けてまいります。

取扱商品につきましては、成長性の高い工具をはじめ、ファッション・ホビーをさらに強化促進し、ブランド・トレーディングカードを守り、良品買館のノウハウを活かして家電・生活用品などを育てていきます。

##### ③店舗政策

###### イ. 総合リユースショップ買取王国業態

総合リユースショップ買取王国業態に関して、業務の単純化・標準化・専門化を推進し、時流に合わせてお客様が再来店したくなる魅力的な売場づくりを追求いたします。その一環として、買取王国高畑店をリニューアルし、ホビー専門店として2025年6月13日にオープンする予定です。ホビー商材旗艦店として位置づけ、魅力あふれるホビー売場を創り出してまいります。

また、2025年3月2日の営業をもちまして、岐南店及び港店の一角にあるふるいちの売場を撤退いたしました。岐南店では、坪効率を考慮した売場の再編を行い、2025年3月29日にリニューアルオープンをいたしました。このように、昨年新店である岐南店、松原店及び良品買館より業態変更した宝塚インター店に関しては、より早期な投資回収に向けて様々な施策を通して、徹底的に取り組んでまいります。

その他には、2店舗の内外装改修工事を計画しております。老朽化した店舗を綺麗にするとともに、地域に合った商品構成を見直し、お客様が入りやすい店舗づくりを推進いたします。

###### ロ. 工具買取王国業態

工具買取王国業態に関して、誰でも買取・販売・マネジメントができる標準化システムの構築及び人材育成に注力し、直営及びフランチャイズ形式で多店舗展開を加速していくため、データベースづくりやオペレーションの深化を引き続き取り組んでまいります。

また、新規ドミナントエリアでの新店舗の認知度を早く上げられる手法を模索し、実験・検証を行い、確立してまいります。

2026年2月期においては、2025年3月8日に、グランドオープンいたしました工具買取王国柴田本通店（名古屋市南区）を含め、直営店舗7店舗の出店を計画しております。

#### ハ. 総合リユースショップ良品買館業態

総合リユースショップ良品買館業態に関して、2024年8月末に事業譲受後、寝屋川店を良品買館業態の家具家電専門のアウトレット店舗としてリニューアルし、お客様により鮮度の高い商品を提供する環境整備を行いました。今後、店頭業務の効率化、商品化速度のアップ、また適正な人員配置や店舗立地の特性に合わせて買取王国商材の導入などの運営改善を推進するとともに、さらに人材育成に力を入れてまいります。良品買館業態としての強みを磨き、収益性を高めてまいります。

#### ニ. おたから買取王国業態

おたから買取王国業態に関して、広告手法を見直し、社内遠隔査定体制を活用して、より効率的な店舗運営の仕組みを構築して、早期の出店再開を目指しております。

#### ホ. マイシュウサガール業態

マイシュウサガール業態に関して、2025年3月1日に半田インター店（愛知県半田市）、2025年3月14日に岐阜北方店（岐阜県本巣郡）の2店舗をグランドオープンいたしました。国内の3次流通として自社の店舗を支えるとともに同業他社の困りごと解決にも取り組んでまいります。店頭でお客様にサービスを提供することに専念できるように、2025年2月期までに商品加工等を物流センターへ集中化することが完了しました。今後、さらに生産効率を高めてまいります。

#### ④その他新業態

会社が永続していくために、時流に合わせて変化することが必要不可欠だと考えております。

当社は、インターネットを介してより広い範囲のお客様のニーズを満たすため既存の国内E Cの強化に加え、越境E Cを開始するE C事業、不要になった品物で大学・非営利団体等へ寄付を行える寄付事業「モノドネ」に、今後も経営資源を投入して、推進してまいります。

また、当社の強みを活かした販売買取強化戦略並びに海外進出の布石として、2025年5月2日に、新たな古着専門店業態としてKOV（買取王国ヴィンテージ）の第1号店を名古屋市中区の大須地区にオープンする予定をしております。既存買取王国の仕入での競争優位性を高め、さらなる顧客満足度向上に繋げてまいります。

前述の越境E Cの開始に加え、アメリカの子会社REIG CORPORATIONも出店に向けて準備を始めております。世界に目を向けて、今までよりもっと広範囲のお客様に喜びと心の満足を創り出せるよう行動してまいります。

以上により、2026年2月期の期末見通しにつきましては、売上高8,810百万円（前年同期比12.6%増）、営業利益500百万円（同18.6%増）、経常利益543百万円（同16.6%増）、当期純利益366百万円（同11.7%増）を予定しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、国際会計基準に基づく財務諸表を作成するための体制整備の負担等を考慮し、日本基準に基づき財務諸表を作成しております。

## 3. 財務諸表及び主な注記

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年2月29日)	当事業年度 (2025年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,265,000	1,183,860
売掛金	221,657	291,170
商品	1,426,913	1,895,241
前払費用	91,290	117,610
その他	14,453	29,694
流動資産合計	3,019,315	3,517,576
固定資産		
有形固定資産		
建物	535,162	619,956
減価償却累計額	△355,988	△385,167
建物(純額)	179,173	234,789
構築物	168,316	184,388
減価償却累計額	△138,012	△142,261
構築物(純額)	30,303	42,127
車両運搬具	7,582	7,582
減価償却累計額	△7,582	△7,582
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品	407,525	523,745
減価償却累計額	△331,994	△379,798
工具、器具及び備品(純額)	75,531	143,946
土地	392,159	399,186
その他	-	10,150
有形固定資産合計	677,167	830,200
無形固定資産		
ソフトウェア	5,505	76,350
ソフトウェア仮勘定	20,750	11,994
その他	328	328
無形固定資産合計	26,583	88,673
投資その他の資産		
投資有価証券	250,000	150,000
関係会社株式	12,000	27,676
出資金	31	31
関係会社長期貸付金	2,000	34,918
長期前払費用	34,235	51,155
繰延税金資産	53,137	51,255
差入保証金	294,623	394,090
保険積立金	77,775	81,944
投資その他の資産合計	723,803	791,071
固定資産合計	1,427,555	1,709,946
資産合計	4,446,870	5,227,523

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年2月29日)	当事業年度 (2025年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	17,413	20,932
1年内返済予定の長期借入金	413,308	415,754
未払金	160,670	179,714
未払費用	138,053	168,747
未払法人税等	80,151	75,594
未払消費税等	82,981	32,826
契約負債	14,828	20,154
前受金	408	408
預り金	13,801	17,490
前受収益	4,505	8,259
賞与引当金	18,088	19,625
ポイント引当金	22,324	28,714
その他	452	562
流動負債合計	966,989	988,787
固定負債		
長期借入金	574,315	927,062
退職給付引当金	46,400	46,600
資産除去債務	91,635	119,960
その他	16,231	82,269
固定負債合計	728,582	1,175,892
負債合計	1,695,571	2,164,679
純資産の部		
株主資本		
資本金	49,004	58,763
資本剰余金		
資本準備金	291,591	301,351
その他資本剰余金	312,587	312,587
資本剰余金合計	604,179	613,938
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,098,224	2,390,250
利益剰余金合計	2,098,224	2,390,250
自己株式	△109	△109
株主資本合計	2,751,299	3,062,843
純資産合計	2,751,299	3,062,843
負債純資産合計	4,446,870	5,227,523

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
売上高	6,739,406	7,822,875
売上原価		
商品期首棚卸高	1,348,264	1,426,913
事業譲受による商品受入高	-	192,721
当期商品仕入高	3,354,542	3,969,184
合計	4,702,806	5,588,819
商品期末棚卸高	1,426,913	1,895,241
商品売上原価	3,275,893	3,693,577
売上総利益	3,463,513	4,129,297
販売費及び一般管理費	2,967,995	3,707,230
営業利益	495,517	422,066
営業外収益		
受取利息	6,510	15,266
受取手数料	14,702	15,871
設備賃貸収入	26,320	33,072
受取賠償金	2,681	-
その他	9,699	17,847
営業外収益合計	59,913	82,057
営業外費用		
支払利息	2,733	6,138
設備賃貸原価	23,022	26,403
保険積立金取崩損	3,384	-
その他	2,362	5,813
営業外費用合計	31,502	38,355
経常利益	523,928	465,768
特別利益		
営業権譲渡益	-	23,525
特別利益合計	-	23,525
特別損失		
減損損失	-	1,360
特別損失合計	-	1,360
税引前当期純利益	523,928	487,933
法人税、住民税及び事業税	162,289	157,703
法人税等調整額	1,243	1,881
法人税等合計	163,532	159,585
当期純利益	360,396	328,348

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余 金 繰越利益剰余金			
当期首残高	37,865	280,453	312,587	1,766,775	△109	2,397,572	2,397,572
当期変動額							
新株の発行(譲渡制限付株式報酬)	11,138	11,138				22,277	22,277
剰余金の配当				△28,947		△28,947	△28,947
当期純利益				360,396		360,396	360,396
自己株式の取得					—	—	—
当期変動額合計	11,138	11,138		331,449	—	353,726	353,726
当期末残高	49,004	291,591	312,587	2,098,224	△109	2,751,299	2,751,299

当事業年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余 金 繰越利益剰余金			
当期首残高	49,004	291,591	312,587	2,098,224	△109	2,751,299	2,751,299
当期変動額							
新株の発行(譲渡制限付株式報酬)	9,759	9,759				19,519	19,519
剰余金の配当				△36,322		△36,322	△36,322
当期純利益				328,348		328,348	328,348
自己株式の取得					—	—	—
当期変動額合計	9,759	9,759		292,025	—	311,544	311,544
当期末残高	58,763	301,351	312,587	2,390,250	△109	3,062,843	3,062,843

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	523,928	487,933
減価償却費	70,228	100,231
減損損失	-	1,360
賞与引当金の増減額 (△は減少)	8	1,536
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3,500	200
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	3,216	6,389
契約負債の増減額 (△は減少)	3,243	4,244
受取利息及び受取配当金	△6,510	△15,267
受取保険金	-	△106
営業権譲渡損益 (△は益)	-	△23,525
支払利息	2,733	6,138
為替差損益 (△は益)	-	1,264
売上債権の増減額 (△は増加)	△36,704	△69,512
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△78,776	△289,658
仕入債務の増減額 (△は減少)	△94	16,629
未払金の増減額 (△は減少)	△509	16,407
その他	77,023	23,804
小計	561,287	268,070
利息及び配当金の受取額	6,160	7,954
利息の支払額	△2,770	△6,470
保険金の受取額	-	106
法人税等の支払額	△210,074	△162,260
営業活動によるキャッシュ・フロー	354,603	107,400
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	△252,003
関係会社貸付けによる支出	△2,000	△333,681
関係会社貸付金の回収による収入	-	300,000
有形固定資産の取得による支出	△47,373	△245,228
無形固定資産の取得による支出	△20,750	△18,681
有価証券の償還による収入	-	100,000
資産除去債務の履行による支出	△1,492	-
差入保証金の差入による支出	△41,570	△43,289
差入保証金の返還による収入	400	4,148
子会社株式の取得による支出	-	△15,676
事業譲受による支出	-	△275,113
営業権譲渡による収入	-	44,871
保険積立金の積立による支出	△5,172	△7,316
その他	8,350	△16,942
投資活動によるキャッシュ・フロー	△109,609	△758,913

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	400,000	900,000
長期借入金の返済による支出	△370,327	△544,806
配当金の支払額	△28,947	△36,322
財務活動によるキャッシュ・フロー	725	318,870
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	245,720	△332,641
現金及び現金同等物の期首残高	1,019,280	1,265,000
現金及び現金同等物の期末残高	1,265,000	932,359

## (5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「関係会社貸付けによる支出」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前事業年度のキャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた6,350千円は、「関係会社貸付けによる支出」△2,000千円、「その他」8,350千円として組み替えております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

品目別販売実績

(単位：千円)

品目	前期累計期間	当期累計期間
	(自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
ファッション	2,780,893	3,259,344
工具	1,271,272	1,449,194
ホビー	1,121,124	1,395,436
ブランド	721,133	791,506
トレカ	380,363	250,452
その他	464,619	676,940
合計	6,739,406	7,822,875

各品目の主な内容は以下のとおりです。

品目	主な内容
ファッション	一般衣料、靴、服飾雑貨品、腕時計等
工具	電動工具、エア工具、エンジン工具、油圧工具、ハンドツール等
ホビー	食玩、ジャパントイ(注)、各種フィギュア、プラモデル、ミニカー、モデルガン、楽器、スポーツ用品、釣具等
ブランド	ブランド商品(バッグ、時計を含む)、宝石、貴金属製品及び地金
トレカ	トレーディングカード等
その他	ゲームソフト、生活用品、携帯電話、家具、金券、酒、その他

(注) ジャパントイとは、日本のアニメキャラクター玩具や特撮ヒーロー玩具等、日本企画のおもちゃを総称したものであります。

## (セグメント情報等)

## 1 報告セグメントの概要

## (1) 製品及びサービスごとの情報

当社は、総合リユース小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (2) 地域ごとの情報

## ① 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## ② 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

当社は、総合リユース小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当社は、総合リユース小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 4 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当社は、総合リユース小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
1株当たり純資産額	757円45銭	838円92銭
1株当たり当期純利益金額	99円36銭	90円09銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2023年3月1日 至 2024年2月29日)	当事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	360,396	328,348
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	360,396	328,348
普通株式の期中平均株式数(株)	3,626,967	3,644,290

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。